

### 経皮免疫に関する實驗的研究(第三編)

「チフス」菌、「パラチフス」菌を用ひての重複経皮免疫血清と経皮下重複免疫血清につき、免疫効果を比較觀察するに Pfeiffer 氏現象、試験管内溶菌試験、中毒致死豫防試験、「マウス」腹腔内生菌感染試験、「チフス」生菌經腸試験に於て夫々免疫現象を觀察し得たり。且一回経皮免疫と重複経皮免疫、並皮下経皮重複免疫との三つの場合を比較するに前者は後二者より免疫効果劣れる如く、重複免疫相互の成績には著しき差なきも経皮下重複免疫が單獨皮下注射免疫よりすぐれたるが如き感あり。

31卷 3號

### 採尿法による腎臓の細菌排泄に関する實驗的研究(II) Nelaton 氏 Katheter 留置家兔膀胱導尿法による實驗成績に及ぼす Katheter の影響に就て

西村 幹夫

一般に腎臓の細菌排泄に関する實驗的研究方法として Nelaton 氏 Katheter 留置家兔膀胱導尿法に依て血流内注入細菌の尿中出現状態、殊に尿中初發時間を觀察する場合には Nelaton 氏 Katheter 膀胱内留置時間を極力短時間とせざれば正確なる結果を得られぬ感がある。尙家兔血流内注入細菌の膀胱尿中出現と蛋白或は圓嚙の尿中出現とは必ずしも兩立せず。

### 白鼠に發生せる可移植性腫瘍の一菌株に就て(IV) 本腫瘍の轉移形成に就て

弓削 鐵夫

本腫瘍の皮下移植を行ひし 637頭の白鼠中、124頭(19.4%)に於て轉移竈形成を認め、且諸臓器中、特に淋巴腺、就中腫瘍移植側の鼠蹠腋窩及び腎上部後腹壁淋巴腺に轉移する事最多し、尙轉移形成率は一般に試獸の體重大にして且長命なるもの程高い様である。

### リーケンベルグ氏反應に関する知見補遺 第3編「トリパノゾーマ」の運動と血小板帶荷現象

高崎 澄

數種の「トリパノゾーマ」を用ひて其運動と血

小板帶荷現象との間に於ける關係に就て見るに兩者の間には或程度の關係が存在するもの様である。又「トリパノゾーマ」が全く假死の状態になつても新鮮なる「マウス」の血液を添加する事により運動が回復すれば血小板を帶荷する。その運動様式も又帶荷現象に關するもの様である。

### 實驗的海鼠再歸熱に於て原株と再發株との補體結合反應による免疫學的研究 (II) 再發株による自働免疫と原株接種

矢野 實

海鼠の腹腔に再發株「スピロヘータワクチン」注射後原株並に再發株に對する補體結合反應を検し、又第二次操作として原株「スピロヘータ」浮游液を腹腔に接種して原株「スピロヘータ」の感染状態及び兩株に對する補體結合反應の推移を追求するに、再發株の場合には兩株の混合抗原性を示し補體結合反應により兩者を嚴格に區別し得ず。且兩種海鼠に原株浮游液を接種する場合感染は不成立にして且原種補體結合反應は著明に影響さる。(以上伯井抄)

### 皮膚と泌尿

6卷 1號 (昭和13年2月)

#### 皮下血管筋腫に就て

佐藤 三郎

石橋 健夫

3例の皮下血管筋腫を報告し各々の組織學的所見に就て詳述してゐる。

#### 異常血管を伴へる囊腫腎兼腎水の一例

中村 實

血尿を主訴とする患者の左腎に於て囊腫腎と異常血管に因ると思惟される腎水腫を發見し、且つ病理組織學的に筋纖維腫をも認め得た一例である。

#### 全身性慢性増殖性虎状膿皮症

富田 雅雄

山内 玄

12歳の男子に4年以來發生して自然治癒を嘗む事なき疣狀乳嘴狀膿皮症が殆ど全身に發現した一例に就て述べてゐる。